

みつけた！



六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

企画展：昔の暮らしの移り変わり(軍馬補充部編)

江戸時代の南部藩のころから、六ヶ所村は「東六ヶ村」と呼ばれており、その六つの村(泊・出戸・尾駸・鷹架・平沼・倉内)が、明治22年の町村合併で「六ヶ所村」となりました。江戸時代から明治・大正・昭和初期にかけて、浜では魚がたくさん獲れ、半農半漁の生活がありました。また、ここ六ヶ所村には広大な有戸野の台地が広がっており、南部藩の藩営牧場(馬)の有戸野牧がありました。明治6年(1873)には、有戸野牧は閉鎖され、飼われていた馬は売り払われてしまいました。明治時代には、この牧は国有地・御料地となり、明治11年(1878)には、陸軍軍馬補充部の表館放牧場が開設され、監守所(旧一中跡地)が置かれました。その後、千歳地区には、倉内軍馬放牧場もできました。軍馬の生産が、六ヶ所村の一大産業となったのです。例として、二又地区では、馬は、2歳駒になると七戸の競市で売り、良馬は軍用馬として陸軍補充部に買い上げられ、5歳になるまで民間に預けられ飼育されていました。どこの家も10頭から20頭くらいの馬を常時飼育していて、地区全体では約200頭の馬が飼われていたそうです。



放牧場(旧二又小学校跡地)

しかし、先の大戦後の軍部解体により、広大な国有地・御料地は、荒地となってしまいました。



大日本管轄分布図 1907(明治40)年



大日本帝国地図陸軍陸地測量部作製 1921(大正10)年